

# 2022年度学習院大学史学会総会

## 第38回学習院大学史学会大会

**2022年6月25日(土)** 総会 9:30~10:45

会場：学習院創立百周年記念会館 大会 11:00~17:45

### ▶ 研究報告

\*総会はオンラインにて開催します(会員のみ)  
\*大会はオンラインと対面の併用開催となります  
\*申込方法などの詳細は下記本会HPをご確認ください

#### 第1部 11:00~12:00

浄御原令制下の官司制と官職

村島 秀次(学習院大学大学院博士後期課程)

「杜受田奏」の鎮圧方略—太平天国前夜における清朝中央政府の地方把握—

朱 勃瑀(学習院大学大学院博士後期課程)

#### 第2部 13:00~14:00

ユリウス=クラウディウス家とカルプルニウス・ピソ家(仮)

丸亀 裕司(学習院大学非常勤講師)

評制下における春米輸貢制について

池田 純(学習院大学大学院博士後期課程)

#### 第3部 14:10~15:10

前漢時代における中央と地方の連結—「徴」の事例を中心に—

莊 卓燐(学習院大学東洋文化研究所助教)

中世盛期イングランドにおける教会と戦争

—『大年代記Chronica Majora』を中心に—

小塩 健(東北大学大学院博士後期課程)

戦国前期畿内と西国の政治的連動性—天文期尼子氏の播磨侵攻を通して—

野里 顕士郎(学習院大学大学院博士後期課程)

### ▶ 講演 15:30~17:45

出土文字史料から歴史を読む—楚簡の世界— 海老根 量介

(学習院大学文学部史学科准教授)

近世房総の山間村落と薪炭生産 後藤 雅知(立教大学文学部史学科教授)

# 研究報告要旨

## 第1部 11:00~12:00

### 浄御原令制下の官司制と官職

村島 秀次 於 第1会議室

浄御原令の研究状況については、坂上康俊氏が整理するように（1）近江令の達成を重視する見方、（2）浄御原令の達成を重視する見方、（3）大宝令をそれ以前の達成とは隔絶したものとする見方の三つの見解が鼎立している。今回の報告では、浄御原令制下の官司制と官職を分析することにより、大宝令制の「二官八省制」や「四等官制」との比較において浄御原令の達成度を検証する。

### 「杜受田奏」の鎮圧方略 —太平天国前夜における清朝中央政府の地方把握—

朱 勃瑀 於 第3会議室

1850年、太平天国前夜における広西では、民衆宗教・天地会に代表される秘密結社・盗匪など、清朝政府から見ればいわば教匪・会匪・土匪と称される反乱集団が活躍した。本報告では、それらの反乱に対し、咸豊帝の師であり、刑部尚書・協弁大学士であった杜受田が上奏する「杜受田奏陳両広起事情形並剿捕方略単」に注目し、「杜受田奏」のなかにある「整軍威」・「募精勇」・「勸郷団」・「察地形」・「務解散」などの五つの方略を分析した上で、清朝中央政府が統括する緑営軍、郷勇や団練などの鎮圧の手段に対する認識の変容について考察を加える。

## 第2部 13:00~14:00

### ユリウス＝クラウディウス家とカルプルニウス・ピソ家（仮）

丸亀 裕司 於 第1会議室

カルプルニウス・ピソ家は、紀元前3世紀末にローマ政界に進出して以来、多数のコンスルを輩出した有力家系である。このピソ家のうち、前23年にコンスルとなったグナエウス・ピソの子孫は、その後3世代にわたってコンスルを輩出し続けた一方で、その何人かは皇帝家（ユリウス＝クラウディウス家）への謀反の疑いで死を賜ることとなった。本報告では、このカルプルニウス・ピソ家に注目して、当時の政治状況を検討する。

### 評制下における舂米輸貢制について

池田 純 於 第3会議室

本報告では、これまであまり研究の進んでいない評制下における舂米輸貢制について以下の順で考察し、明らかにする。①評制下における飛鳥藤原地域への米輸貢過程を木簡を中心に考察。②評制下における米輸貢の理由を考える前提作業として、郡制下の米輸貢制の実態について、先行研究を再検討。③評による飛鳥藤原地域への米の輸貢、特に舂米輸貢がなぜ行われたのか、その意義や歴史的背景を②の分析結果を参考に考察。

## 第3部 14:10~15:10

### 前漢時代における中央と地方の連結 —「徴」の事例を中心に—

莊 卓燐 於 第1会議室

前漢時代の支配体制は「関中」と「関外」を厳格に区分し、中央の直轄地を豊かにすることによって、地方との格差を意図的に拡大させていた。地域を越えた移動が厳しく制限されるなか、一般民衆が首都圏へ出入りすることは容易ではなかった。その中で、中央と地方を往来する人材の移動が見られ、「徴」の文言が付く中央への招聘事例はその一つである。本報告は前漢時代に見える「徴」の事例を整理し、当該時期における中央と地方の連結関係を明らかにし、その歴史的な意義を探究する。

### 中世盛期イングランドにおける教会と戦争 —『大年代記Chronica Majora』を中心に— 小塩 健 於 第2会議室

これまでノルマン征服後イングランドにおける教会と戦争の関係は、国制史あるいは法制史から研究され、聖職者が戦争に関わる動機は、封建制度下の騎士軍役奉仕義務だと解釈された。また、聖職者の武装を教会法がどのように規定していたかについても考察がなされた。さらに、近年は高位聖職者の司牧的側面に着目した軍事史も加わっている。本報告では、特に霊的な武器に注目し、13世紀の叙述史料である『大年代記Chronica Majora』を主要な分析史料として、当該時期における司教の戦争における役割について考察する。

### 戦国前期畿内と西国の政治的連動性 —天文期尼子氏の播磨侵攻を通して—

野里 顕士郎 於 第3会議室

戦国前期の「二人の将軍」時代は天文2年頃に収束し、将軍義晴政権の安定化が図られた。義晴と対立していた諸勢力も徐々に関係を改善し、将軍一本化の姿勢を示したとされる。本報告では、天文6年頃に始まる尼子氏の播磨赤松氏への軍事行動を通して、両者に対する義晴の対応の変化を畿内情勢も加味しつつ検討する。以上の分析より、義晴と旧敵対勢力の関係性の転換が赤松氏処遇問題に影響したことを指摘し、当該期畿内及び西国諸勢力の政治的転換点の一例を示す。

## 参加申込方法

本会HPからお申し込みください。右のQRコードからもアクセスできます。



申込締切は6月22日(水)です。6月24日(金)に、参加に必要な情報や配布資料のご連絡を差し上げます。